

指導教員名	清水信年
-------	------

活動区分	商品開発型	連携先	企業
	イベント企画型		

～ 神戸学生イノベーターズ・グランプリ (I-1グランプリ) ～

活動の様子



「GREENIA CIRCLE」が試作したリーフレット

取り組む課題

『コロナ禍で打撃を受けた六甲山観光の収益改善』というメインテーマが設定され、より具体的な内容を示すサブテーマとして、六甲山エリアの各施設(アスレチックパーク GREENIA、六甲森の音ミュージアム、六甲ガーデンテラス、六甲ケーブル)ごとに利用者増や収益改善策を提案することが求められた。



「摩爾4」が提案した新メニューのイラスト

本学(学生)の役割

I-1グランプリに参加する学生は、現地を訪問してのフィールドワークや独自調査などで情報収集を行ったうえで、11月に中間発表、12月に最終発表を行った。学生の目線から提案される内容に対し、中間発表において六甲山観光の社員ならびに本学教員からのコメントや指摘が提供され、それをふまえ仕上げた企画を最終発表でプレゼンテーションした。当科目受講者による4チームも、10月に行われたフィールドワーク会に参加したうえで、独自のニーズ調査などもふまえた企画提案を行った。

企画・活動概要

流通科学大学が2009年より主催し、学園都市周辺の大学・高校が出場する社会共創活動のイベントで、毎年度、地元企業などにご協力いただき運営されている。今年度の協力企業は、六甲山の山上エリアでレジャー施設を運営する六甲山観光株式会社で、後述のように、コロナ禍で打撃を受けた同社施設の収益改善というテーマが設定された。当イベントは、流通科学大学の学内外から様々な学びをする学生・生徒が挑戦するため、マーケティング論や経営学、経済学、芸術系や観光系の領域からも取り組みやすいサブテーマが設けられた。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

最終発表を経ての審査結果では、参加した4チームのうち「GREENIA CIRCLE」が最優秀賞を受賞したほか、「KING」が準優勝、「摩爾4」が特別賞をそれぞれ受賞した。先述のように、ゼミ活動とは異なり当科目で初めて商品企画を経験する受講者も多い状況を考えると、異例のことと言える。遅から漏れた1チームも、最終報告に至るまでの講義時間中にお互いのチームの取り組みについて意見を交わすことを続けてきており、現実の企業課題に対してどのように考察や提案をすればよいのかという点で非常に貴重な経験を得たうえ、企業側からも相当の評価をされたことで大きな自信も得たと言える。



最優秀賞の評価を得た「GREENIA CIRCLE」

経緯・背景・目的

清水が担当する実習科目「商品開発特別研究II」では、このI-1グランプリに毎年参加している。当科目は、商品企画(もしくは広くマーケティング関連の企画)に実際に取り組むことを通じて商学部の各科目で学んだ知識を実践的に活かせる能力に昇華させることを目標としている。以前は、特定の企業や自治体にご協力をいただき商品企画の提案をしていた年度もあったが、ゼミのようにもともとそうした活動に関心が高い学生のみが履修するわけではない当科目では、I-1グランプリのように他チームとの競い合いを通じて切磋琢磨できる場を用意することが学生のモチベーションにつながると考えている。

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>

商学部
マーケティング学科
教授
清水信年(シミスプロトシ)

<専門・担当科目等>
マーケティング論

<関係者・企業等>

六甲山観光株式会社